



NST No.19

編集/阿部裕子 岡本智子
 近藤健男 斉藤真紀子
 酒井敬子 瀬田拓
 日野美代子 三浦まり
 宮田剛
 発行/東北大学病院NST広報係
 TEL.7120 FAX.7147

NUTRITION SUPPORT TEAM NUTRITION SUPPORT TEAM NUTRITION SUPPORT TEAM



この度、私達『東北大学病院NST (nutrition support team)』は、2008年の10月に設立5周年を迎えることとなります。
 日頃、NST活動にご理解いただいています先生方に、NST活動に関して感じる事・期待する事をご寄稿いただきました。ご一読いただければと思います。

NST通信新年号へ寄せて

病院長 里見 進

東北大学病院のNSTが設立5周年を迎えたこととお喜びするとともに、日ごろの活動に感謝申し上げます。大学病院は医療の最後の砦としての機能を要請される立場上、対象となる患者さんは様々な合併症を抱えることが多く、診療各科の垣根を取り払った多科横断的な診療や、多様な職種が共同で対処する体制が必要になっています。NSTにはこの5年の間に、疾患に対処する基本としての栄養学の知識を普及していただくとともに、チーム医療のあり方を目に見える形で院内に示していただきました。また、EBMの本当の意味である個人々の病態に即した治療の実践の面からも、本院に与えたインパクトは大きかったと考えております。今後とも1000床を越える大病院でのNST活動の模範となれるような活躍を期待いたします。



NSTの活躍に期待する

薬剤部 部長 眞野成康

薬を処方するとき、小児であれば体重等によって薬の量を加減し、成人であっても体格に応じて薬の量が違ってくることがある。さらに、症状によっても処方される薬の量は異なる。栄養管理の観点からも全く同じことが言え、体格によっても症状によっても、からだが必要とする栄養素やエネルギーが異なる。したがって、症状や治療に応じた患者個々に対するきめ細やかな栄養管理が、患者さまのQOLの向上にきわめて重要である。患者さまが一日でも早く回復して社会復帰していただけるよう、今後もNSTの活躍に期待している。



NST通信新年号へ寄せて

栄養サポートセンター長 佐々木 巖
 東北大学病院でNST設立の準備を始めたきっかけは、仙北地区の病院で開始されていたNST活動を目の当たりにしたことでした。栄養が創傷治癒に重要であり、生命維持に不可欠のことと理解していま



したが、臨床の場で有効な支援が出来る…という事です。勉強会を開催することから始まりました。「NSTってなに?」「栄養ってそんなに重要な事なの?」という質問が多かったのですが、そんな中で5年前にNSTが誕生し、皆さんのやる気と協力で活動を続け、今、「NST」の言葉はすっかり定着した感があります。途中から歯学部からも参加申し出があり、大きな広がりをもったチームとなっています。チームメンバーは毎週のmeetingやラウンドを日頃の診療に加えてこなしており、在院日数の短縮などに効果が反映されています。そして、その目覚ましい働きぶりや貢献から病院長表彰も受けています。現在の入院患者の栄養管理実施加算算定率が75%ですが100%に近づけてより強力なサポートが出来るよう常に努力しています。これからはNSTの中身をさらに充実していくことが課題です。例えば、NST活動を医療連携にも活かす必要があります。皆様の温かいご支援とご協力を今後ともよろしくお願いたします。

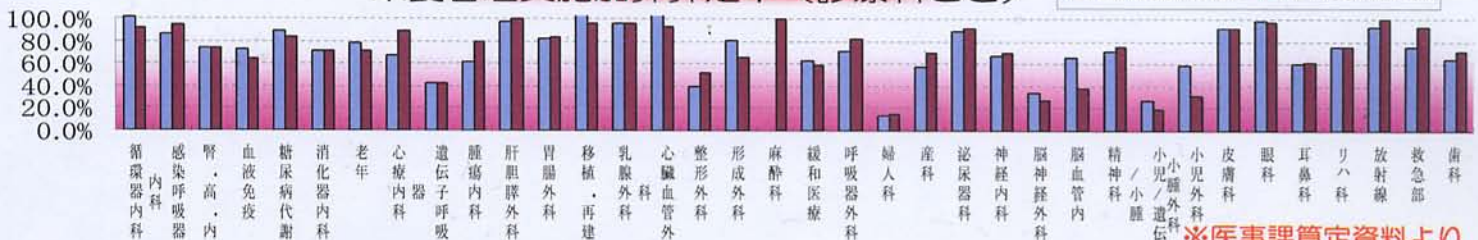
NST通信新年号へ寄せて

看護部 部長 星野 悦子

栄養アセスメントにより入院早期から栄養状態を把握して、栄養の補給を行い栄養の改善をはかるNSTの活動は重要です。低栄養状態では、手術後の合併症、免疫力低下による感染の増加、筋肉量減少によるADL低下が起り入院期間は長期化しますが、NSTの日常的活動は病状の回復を促進するため入院期間の短縮に繋がっています。NSTの活動はチーム医療の実践であり、病院には不可欠な存在となっています。病院の医療の質向上に貢献しているNSTの活動に、協力をするとともに、おおいに期待しております。



栄養管理実施加算算定率 (診療科ごと)



※医事課算定資料より